

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：特定非営利法人 環境・福祉事業評価センター	所在地： 長野県長野市南高田2-5-16
評価実施期間： 令和5年8月28日から令和6年3月12日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050301 B18055 B15020	

2 福祉サービス事業者情報（令和5年12月現在）

事業所名： （施設名）飯田市下久堅保育園	種別：認定こども園（保育所型）	
代表者氏名：市長 佐藤 健 （管理者氏名）園長 岩橋 真由美	定員（利用人数）：90（56）名	
設置主体：飯田市 経営主体：飯田市	開設（指定）年月日： 昭和38年12月1日	
所在地：〒399-2603 飯田市下久堅知久平 940-2		
電話番号：0265-29-8055	FAX番号：0265-29-8055	
電子メールアドレス：ns-shimohisakata@city.iida.nagano.jp		
ホームページアドレス： https://www.city.iida.lg.jp/		
職員数	常勤職員：17名 非常勤職員 0名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士 15名	
	調理員 2名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	ほふく室 1室	4連ブランコ、山形雲梯、8人用かさ型ハン ト棒、複合すべり台、太鼓梯子、4列鉄棒、 ラダーウェーブ、砂場、築山
	保育室 6室	
	調理室 1室	
	事務室 1室	
	遊戯室 1室	
便所 5室		

3 理念・基本方針

飯田市教育・保育理念

飯田市の自然や文化・歴史など恵まれた環境の中で、すべての子どもたちが心身とも健やかに育つ事を願い、子どもの最善の利益を考慮し、地域との連携を図りながら、保護者とともに、現在未来をよりよく生きる力を培います

飯田市教育・保育目標

- ・健康でたくましい子ども
- ・自分から進んでやる子ども
- ・友だちと仲良く遊ぶ子ども
- ・よく考える子ども
- ・心豊かな子ども

下久堅保育園目標

- ・よく見、よく聞き、よく考える子ども
- ・いろいろな事に興味を持ち、自分で考えてやろうとする子ども
- ・友だちと一緒に楽しく遊べる子ども
- ・のびのびと自己表現できる子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

飯田市下久堅保育園は、飯田市の長野県 飯田市 の 天竜川 左岸（竜東） 河岸段丘の上に位置する下久堅（しもひさかた）地区の中心地にある。地区は飯田市街地から凡そ 7km、そこからは飯田市街地や中央アルプスが一望できる五味五色の農業生産物が豊かに実る中山間地域である。明治 22 年 3 月 27 日、現在の区域となり昭和 31 年 9 月 30 日飯田市に編入され今日を迎えている。中心地の標高は 454m、面積 12.23 平方 km、人口約 3,100 人で、東京と大阪のおよそ中間に位置し、「結い」が息づく温暖な土地である。また「ひさかた和紙」の伝統文化が息づいており、興味深い歴史や素敵な自然に囲まれている。

園は昭和 38 年の開設であり、園舎は現在長寿命化の改築が行われている。園児数は、1 歳児 5 人、2 歳児 11 人、3 歳児 9 人、4 歳児 13 人、5 歳児 18 人の計 56 人である。中規模保育園として子どもの主体性を大切に出来る環境にあり異年齢保育を取り入れている。付加的なサービスとして、非定型的保育サービスと保護者の傷病、災害等の緊急保育サービスとしての緊急預かり事業と親子の相互交流事業と子育て相談事業を行っている。

自己を十分に発揮して、自信を持てるようにする。基本的生活習慣の自立、生活のきまりを理解し行動できるようになる。地域を大切にする心を持つ。散歩にたくさん出かけ、地域を知り、たくましい体と豊かな感性を育てる。地域の人や異年齢などの身近な人とのかかわりを大切にする。地域や保護者の方々に子どもの様子を知ってもらい共に育てる。田んぼ、畑づくりで収穫の喜びや食物のありがたさを感じることを願い、保育を進めている。

給食は、年間計画を立て、みんなで楽しく食事やおやつを食べ、正しい食事マナーを身につけることを目標にしている。

「信州の豊かな自然環境と地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育」の「信州型自然保育(信州やまほいく)」の普及型の認定を受けている。自然保育年間計画を立て、知久平神社、知久平城跡、学有林等の園外、園内の砂遊びでは小動物のカエル、カタツムリの飼育やプール遊びや雪氷遊びなど盛りだくさんである。近くの田んぼや畑で田植えやさつま芋の苗植えから芋掘り等を体験でき、収穫した野菜を食べる食育につなげている。

下久堅小学校が隣接しておりプールは小学校のプールを利用している。毎年、小学校音楽会、運動会、お楽しみ会などの招待を受け積極的にかかわっている。特に 4 年生による人形劇を 12 月に鑑賞した。また、年間 4 回の保小連絡会と保育園参観の中で、子ども達一人ひとりの様子や、家庭環境、発達課題を伝え合う機会を持っている。

未就園児との交流では下久堅地区の主任児童委員、保健師、公民館主事の力も借りながら園児とのふれあいや気軽に子育ての相談ができる機会を作っている。

長野県の保育研究大会では第 61 回大会を飯田市で開催し他の保育園と共同し「飯田市の文化としての人形劇と子どもたちの関わり」をオンデマンドで紹介した。園でも「身近に感じる人形劇」として保育士が人形劇研修に参加し人形劇フェスタだけでなく「心をふるわせる体験」として、保育士劇団等の活動により保育の現場にも多く

取り入れられている。

また、地域環境マネジメントシステムである「南信州いいむす21」を取り入れ環境方針を定め「いいだ型自然保育」に取り組み、資源のリサイクルなどのエコ活動や保育園内外の清掃や花壇作りに取り組み環境に配慮した保育を行っている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	0 回（今回初受審）
---------------	------------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

1. 特に良いと思う点

① 利用者満足度が高く、質の高い保育を行っている。

利用者調査の「毎日の保育に内容」では、「登園時に、家庭でのお子さんの様子等について、園に気軽に声をかけることができますか」、「担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか」、「お迎えの時に、園でのお子さんの様子について、園から気軽に話を聞くことができますか」、「お迎えの時に、お子さんが満たされた表情や喜んだ表情をしていることが多いですか」の4項目について、利用者アンケートでは90%以上が「はい」と回答し、高い満足度を得ている。経験豊かな保育士が多く、豊富な経験とアイデアを活かしている。標準的な保育については、飯田市役所子育て支援課と飯田市公立保育園園長会によって作成されている保育者ハンドブック「ほほえみ」により共通化が図られている。特に異年齢保育に力を入れている。現在、園舎は大規模改修で保育のできる部屋が少ない中、工夫して主体的保育ができるよう努力している。

② 「いいだ型自然保育」で豊かな心と丈夫な体を作っている。

「信州やまほいく（信州型自然保育）」の認定を受け、里山の豊かな自然環境の中、「いいだ型自然保育」に取り組んでいる。下久堅保育園は、里山をテーマに、友だちと一緒に里山あそびを楽しみ、四季の移り変わりを五感で感じて、育ちの芽、学びの芽に繋がっている。里山で体力もつき丈夫な体づくりができている。近くの小林神社や知久平神社で秋の散歩を行い落ち葉や木の実で遊び里山を楽しんでいる。そして、出かけた場所は里山マップにするなど活動の幅が広がっている。出かける場所は、事前に危険箇所を調べ確認してから計画し、園外実施記録として残し安全な園外活動ができるよう取り組んでいる。

③ 地域との交流を積極的に図っている。

地域を巻き込んだ保育が行われており、利用者調査では、「行事等を通じて、地域との交流を図っている」について91%の保護者が、「はい」と答えている。現在園の長寿命化工事が実施され、少子化が進む中、下久堅地区の中核の子育ての拠点となっている。下久堅小学校が隣にあり、プールは令和4年度まで同小学校のものを使用し、令和5年度からは同小学校の方針によりプールを使用しなくなったため、園の組み立て式のプールを使用している。運動会等に参加し交流を深めている。また地域の下久堅自治振興センターを中心に地域づくりの団体等と交流しており、地域活性化活動に取り組んでいるシニアクラブやJA農業振興会の方々の力をお借りして、さつま芋の苗植えから収穫まで子どもたちが体験することができ、地域の宝として大切にされている。また地域の福祉避難所として災害時の備蓄をそろえている。

2. 特に改善する必要があると思う点

① 安心、安全の全体的な取り組みについて定期的な見直し。

子どもの安心、安全な取り組みでは、非常災害時の対策として月1回の火災想定や引渡し等の避難訓練が実施されている。また、食物アレルギー対応や衛生管理も適正に維持管理している。利用者アンケートにあるように保護者の安心、安全の関心は高く要望が多い項目である。危機対応を定めさまざま危機管理に取り組んでいるが改善点や見直す事項はないかさまざまな観点から定期的に検討することを推奨する。具体的には、新省令に基づく安全計画を参考にマニュアルの見直し時期の明示、安全計画を保護者に知らせるための玄関への掲示やおたよりの周知、散歩コースの定期点検、近くの道路や散歩に通る道路について道路管理者とゾーン30やキッズゾーンの検討、BCP（事業継続化計画）の検討について継続した取組みを期待する。また、現在実施されている大規模改修工事においても、子どもの発熱時における静養の

場所を確保する等、安心、安全の取り組みは十分か評価し検討することを推奨する。

② 業務負担軽減の取り組み

保育の現場・職業の魅力向上には、保育士にとって生涯働ける魅力ある職場づくりを行うことが不可欠である。そのためには、園長が組織運営のためのマネジメント力を向上させ、職員と業務負担の軽減や働き方の見直しなどについて話し合い、保育士として働くことの魅力とやりがいを感じられる勤務環境にしていくことが求められている。正規職員以外に会計年度任用職員として担任補助や代替の職員を充実させている点は評価できる。業務負担の軽減では、保育士が子どもたちから離れ、事務作業などを行うことに専念するノンコンタクトタイムの確保による働き方の見直し、保育の現場における計画・記録など保育士の書類作成業務の見直しや保育補助者の活用、パソコン、タブレットやスマートフォンを活用したICTを周辺業務に活用し更に推進することで業務の軽減に繋がることを期待する。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

（6年3月4日記載）

今回、第三者評価を受けるにあたり、評価票の記入を通し、保育園の運営や自分たちの保育を振り返るきっかけとなり、全職員で取り組めたことは良い機会となりました。

利用者調査結果を含んだ評価結果より、「いいだ型自然保育」で豊かな心と丈夫な体を作っているという評価をいただき、大変うれしく思います。これからも積極的に地域に出掛け、地域の方々とかかわりながら里山の豊かな自然環境の中で伸び伸びと遊び、自己を主張しながらも相手の気持ちを感じられる子どもに成長して欲しいと思います。

特に改善する必要があるとのご指摘をいただきました、安心安全の全体的な取り組みについての定期的な見直しにつきましては、避難訓練も様々な災害や有事を想定し、実際に保育時間中に大きな災害が起きた時リスクを最小限に抑えられるよう、保育所として保育士として何ができるのキャリアティーマを持ち、職員一人ひとりが状況に合った判断や対応ができるように月1回の訓練も真剣に取り組んでいきたいと思っています。

業務負担軽減への取り組みは引き続き見直しを行い、保育士が生き生きと働く職場を作っていきたいと思っています。その姿を示すことで、これから保育士を目指す子どもたちにとっても、魅力的でやりがいを感じてもらえるようにしていきたいと思っています。

子どもの育ちの中で、家庭との協力は不可欠ですので、これからも細やかな対応に心がけ、保育園を信頼し、安心して預けていただけるような保育をしていけるよう努めていきたいと思っています。

最後になりましたが、評価調査の皆様には大変お世話になりました。細部にわたりご指導、ご助言をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。